

幼稚園実習のスキルと責任実習での傾向と課題(そのⅠ)

— 東京成徳短期大学の幼稚園実習アンケートから —

福山 多江子・大塚 良一・田中 浩二

1 はじめに

文部科学省報告「幼稚園教員の資質向上について-自ら学ぶ幼稚園教員のために」の養成段階における課題と展望の中で、教員養成課程の学生における実践力の向上について養成機関が幼稚園との連携を強化し、幼稚園現場からのニーズを基にカリキュラムや授業の中で理論と実践を結びつけることの重要性について取り上げている。また、全国保育士養成協議会による「保育実習指導のミニマムスタンダード」においても、実習指導の在り方についての体系案が示されており、限られた修業年数で専門的スキルを身につけることの重要性を示している。

保育者の養成施設である本学の状況に目を向けると、就職等の実態から、学生の多くが将来「保育者になりたい」という意識を持って入学してきていることが伺える。2年間の教育課程において、幼稚園での責任実習は、今まで学んできた理論と実践を発揮する重要な場面となる。本学の幼稚園教諭免許取得にかかる実習および実習指導の体系は、1年次後期11月に2週間の幼稚園前期実習（見学・観察・部分実習）を実施し、幼稚園の実習指導の授業については、1年次後期から始めている。その際、最初に幼稚園教育要領の5領域、幼稚園教育の基本という幼稚園教育に関する基本的な部分を講義し、次に実習日誌の書き方、手遊び、絵本の読み方といった実践力を身につけられるように指導をしている。その後、2年次の6月中旬に2週間の幼稚園後期実習（責任実習）を実施する。2年次には教育実習指導という科目は無くなるが、教育課程総論の授業において、指導案の書き方（部分・責任実習指導案）などに重点を置き、指導にあたっている。加えて、保育士資格を取得する際には、幼稚園教育実習の他に3回の保育実習（それぞれ90時間）を行う。一方、2年間に渡る保育士資格・幼稚園教諭免許取得の過程で、資格・免許取得を諦めてしまう学生が2%程度存在し、その大きな要因として、実習でのつまずきが推測される。保育者を志す学生に対し、実習生としての役割を自覚し、自信を持って実習を遂行させるためには、教育課程でどのようなことに重点を置き、指導を行ったら良いかを考えた時、実習に入る前のスキルの習得が重要になると考えられる。

そこで本研究では、学生が自信を持って実習に臨むために、どのようなスキルを習得させ、学生の指導において配慮すべき点など、指導の在り方を検討することを目的とした。そのために、本学学生の責任実習で、何歳児を担当し、どのような主活動を行ったか、また実習で使用した絵本・紙芝居・手遊び・歌われた曲・弾いた曲を把握し、実習指導においてその結果をどのように生かすべきかを検討した。

2 調査結果

(1) 調査目的

アンケート調査の目的は、幼稚園実習で必要となる学生のスキルの確認と課題とであり、教職員が実習巡回などで実習指導(スーパービジョン)を行う際の利用するために実施した。

(2) 調査期間

2002(平成24)年8月20日(実習終了後2か月の振り返り期間を持って実施)。

(3) 調査方法

幼稚園実習授業終了後、東京成徳短期大学2年生全員に実施。

(4) 調査項目

1) 実習地域

2) 幼稚園の規模等(定員・現員・職員数)

3) クラスの人数(3歳・4歳・5歳)

(実習に関する調査) —3歳・4歳・5歳— 各学年、使用頻度の高い物から3冊書記載する)

(実習の基本調査)	(責任実習に関する調査)
1) 実習で使用した絵本	1) 責任実習は何を行ったか(何歳、人数)
2) 実習で使用した紙芝居	3) 責任実習で行った課題(具体的に)
3) 実習で使用した紙芝居	4) 責任実習で用いた手遊び
4) 実習で使用した手遊び	5) 責任実習で歌った
5) 実習で歌われた曲	6) 責任実習で弾いた曲
6) パネルシアターは行ったか	7) 責任実習で使用した絵本
7) 実習で使用した楽器	8) 責任実習で使用した紙芝居

4) リトミック

(5) 学生には調査目的を伝え、調査結果については目的以外に使用しない旨を伝え了解を得た。

3 結果

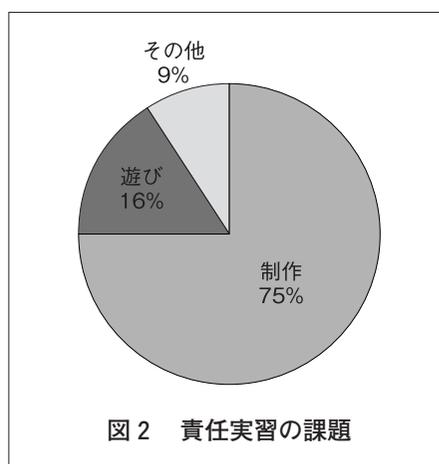
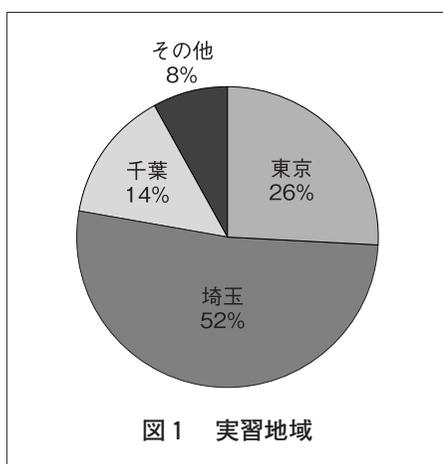
(1) 基礎調査結果の概要

対象数は、アンケート調査の実施日が夏休み中ということもあり実習参加学生のうちの111名だった。

(2) 実習先の状況について

短期大学がある東京都北区十条は交通の便がよく、京浜東北線東十条、埼京線十条駅の両方が最寄り駅になる。このため、東京、埼玉、千葉県 of 学生が通学圏内となる。

実習先については表1の通りであり、埼玉県が58人(52%)と半数以上となっている。つづいて東京29人(26.1%)、千葉県15人(13.1%)である。その他、9人(8.1%)に関しては、



茨城県4人、群馬県1人、栃木1人、鹿児島県1人、山形県1人である。実習園の児童定員については平均で236人となっている。また、教員数については16.7人となっている。

(3) 責任実習について

責任実習の回答があったのが、111人中105人(94.6%)であった(表1)。責任実習が行われた学年については表1の通りである。5歳児が一番多く45人(49.2%)になっている。クラスの人数に関しては3歳児が平均で26人、4歳児が26人、5歳児が28人となっている。一番多い人数は48人(5歳児)、一番少ない人数は14人(3歳児)になっている。

表1 責任実習の学年 n=115

学年	人数	%
3歳児	15	14.3
4歳児	40	38.1
5歳児	45	42.9
全学年	3	2.9
3・5	1	1.0
4・5	1	1.0
計	115	100.0

責任実習の課題については図2の通り、製作系の課題が72人(75%)、遊び系の課題が15人(16%)、その他が9人(9%)であった。責任実習の内容については表2の通りである。6月ということもあり、かたつむりの製作、ぴよんぴよんガエル製作、テルテル坊主をつくる、七夕製作など季節を意識したものが取り入れられている。

表2 責任実習の内容

製 作			
課題	件数	課題	件数
花コブター	17	ひっかき絵	3
紙皿・牛乳パックでフリスビー製作	11	テルテル坊主をつくる	3
かたつむり製作	5	七夕製作	2
新聞遊び	4	フィンガーペインティング	2
ぴよんぴよんガエル製作	3	野菜スタンプ	2
紙コップのケン玉	3	製作(その他)	7
遊び等		その他	
課題	件数	課題	件数
魚釣り	4	一日の流れ	7
身体表現(音楽に合わせて動物になる)	3		
手遊び	2		

※作成課題が複数回答されたものを採り上げる。

実習で一番使われたのが手遊びである。手遊びの中では、「はじまるよ21人(19.1%)」の学生が行っており、つぎに、「とんとんひげじいさん10人(9.1%)」、「ディズニー手遊び9人(8.2%)」、「ピカチュウの手遊び8人(7.3%)」となっている(表3)。

表3 責任実習で使用した手遊び

内 容	件数	%	内 容	件数	%
はじまるよ	21	19.1	ウルトラマン	4	3.6
とんとんひげじいさん	10	9.1	ワニの家族	3	2.7
ディズニー手遊び	9	8.2	おべんとうばこ	2	1.8
ピカチュウの手遊び	8	7.3	とんとんひげじいさん (アンパンマンバージョン)	2	1.8
魚がはねて	7	6.4	とんとんひげじいさん (ドラえもんバージョン)	2	1.8
キャベツの中から	6	5.5	げんこつやまのタヌキさん	2	1.8
グーチョキパーで何作ろう	5	4.5	のねずみ	2	1.8
3匹の子ブタ	4	3.6			

※複数回答されたものを採り上げる。

表4 責任実習で使用した歌

内 容	件数	内 容	件数
お弁当の歌	15	大きな古時計	4
おはよりの歌	15	ニヤニユニョのてんきよほう	4
おかえりの歌	14	しゃぼんだま	3
かたつむり	11	園歌	3
あめふりくまのこ	8	虹	3
さんぽ	7	かえるのうた	2
七夕	5	数字の歌	2
虹の向こうに	5	森のくまさん	2

※複数回答されたものを採り上げる。

責任実習で使用した歌については、表4の通りである。日常の流れの中でよく歌われているお弁当の歌、おはよりの歌、おかえりの歌が上位になっている。その他に関しては季節の歌である「かたつむり」、「あめふりくまのこ」、「七夕」、「虹の向こうに」、「かえるのうた」などが歌われている。

責任実習で弾いた曲については、表4の通りである。責任実習で使用した歌と同様に、日常の流れの中でよく歌われている朝の歌、お弁当の歌、おかえりの歌、園歌が上位になっている。その他に関しては責任実習で使用した歌と同様に季節の歌である「かたつむり」、「あめふりくまのこ」、「七夕」、「虹の向こうに」、「かえるのうた」などが歌われている。

表5 責任実習で弾いた曲

内 容	件数	内 容	件数
朝の歌	25	ニヤニユニョのてんきよほう	4
お弁当の歌	21	さんぽ	3
おかえりの歌	18	森のくまさん	3
かたつむり	6	虹のむこうに	3
園歌	5	たなばたさま	2
大きな古時計	5	しゃぼんだま	2
あめふりくまのこ	5	虹	2
七夕	4	数字の歌	2

※複数回答されたものを採り上げる

表5 責任実習で使用された絵本

書名	書名
ぐりとぐら	あじさい
3匹のやぎのがらがらどん	ねずみくんのチョコッキ
はらぺこあおむし	この色なーに
まあちゃんのながいかみ	小さなクレヨン
かえるくん	3びきのくま
パルパルさん	ぼくひこうき
ありんこのありんこちゃん	七夕
アンパンマン	今日はなんだかついてない
10まで数えられる子ヤギ	きょだいなきょだいな
もしも僕の背が伸びたなら	まーちゃんの長い髪
11匹のねずみ	かたつむりの運動会
ぼくのTシャツ	こんとあき
ボールの魔術師	ごきげんの悪いコックさん
しょうぼうじどうしゃジプタ	コロちゃんはどこ
100階だての家	8匹のカエルざんざん山に
たなばたぶーるびらき	まねしんぼ
かたつむり	ジェイクの麦わら帽子
オバケなんてないさ	100万回生きたねこ
エルマーと虹	どうぞのいす
そらめくんのベッド	はじめてのおつかい
3匹の子ブタ	だいじな話があるよ

絵本の使用については、ばらつきが多く、「ぐりとぐら」（3人）、「3匹のやぎのがらがらどん」（2人）、「はらぺこあおむし」（2人）のみであった（表5）。

また、紙芝居については、絵本に比較すると使用頻度が少なかった（表6）。

表6 責任実習で使用された紙芝居

書名	件数
3匹の子ブタ	1
くまさんのピクニック	1
プール	1
おさかなピッピ	1
〇〇君の紙飛行機	1
魔法使いのナナばあさん	1
注文の多い料理店	1
ロケット	1
けんちゃんの宇宙旅行	1
コロコロパンケーキ	1
計	10

なお、実習期間中にリトミックを行ったかと言う質問に関しては、53人（47.7%）が行っている。

4 考察

本研究は、幼稚園教諭養成校の実習指導教員の取り組みには「何が必要なのか」を調査で明らかにしようとしたものである。そのため、実際に学生が実習で使用したスキルについて調査項目で取り上げた。

まずは、各項目別の考察を行いたい。

（1）責任実習の配属クラスの年齢

本学2年生の責任実習について、年長児を担当する学生が42.9%と約半数になっている。多くの幼稚園では、学生に何歳児を受け持ちたいかという希望を基に配属クラスを決定している。年長児である5歳児は、複文も話せるようになる。また、コミュニケーションが容易で理解力もあり、さらに、身体的能力においても身体各部を調節して全身運動ができるようになり、骨格や筋肉も発達してくるため、様々な運動が力強くできるようになる。このような点から、5歳児は、指導がしやすいという点が挙げられる。

このことから、教育実習指導においては、5歳児の活動面・生活面での指導について、可能なこと、不可能なことを留意させ学生に学ばせる必要を感じた。学生が担当する学年の実態などを考慮し、実習を行うことが重要であると指導していることの結果であると考えられる。

（2）責任実習の内容について

責任実習の内容（主活動）は、製作系の課題が75%、遊び系の課題が16%という結果であり、製作系の主活動を行う学生が圧倒的に多いことが明らかとなった。内容は、折り紙とストローを使用した花こぶたー、紙皿・牛乳パックを使用するフリスビー、かたつむり製作、新聞遊び、びよんびよんガエル製作、紙コップのケン玉などである。

幼児が、製作を行うのに望ましいプロセスとしては、自発的・自然発生的に始めることが挙げられる。この製作の指導方法については、授業の中で学生に体験させているものである。学生があらかじめ製作をしたものを子どもたちに見せ、興味を持たせ、その製作の指導をするという方法を実習指導の授業において説明をしたことにより、導入が容易であったということもこの結果要因の1つと考えられる。

（3）責任実習で使用した手遊びについて

「手遊び」は、手と手、言葉を使用し心のコミュニケーションを図ることのできる遊びの一つである。「はじまるよ」19.1%「トントントンひげじいさん」9.1%「ディズニー手遊び」8.2%という結果となり、手遊びの特徴として顕著である導入によく使用される「はじまるよ」が多く行われていることが明らかになった。また、同じメロディーで動作の違う「トントントンひげじいさん」のバージョンの違うものも子どもの親しみやすさから行われた手遊びであると考えられる。

また、「手遊び」を行うもう一つの特徴として、子どもたちが騒がしく、集中させたいと

きのきっかけ作りがある。実習指導の際にもこのような特徴を生かして手遊びを行うことを心がけるよう指導したことが考えられる。

(4) 責任実習で使用した歌

幼稚園の日常生活で必ず使用する「お弁当の歌」や「おはようの歌」、「おかえりの歌」が上位をしめている。日常生活の中で使用される歌については、別項目で調査を行う必要があったと考察できる。しかし、注目したいことは、「かたつむり」や「あめふりくまのこ」、「大きな古時計」などの季節の歌が大半を占めているということである。又、これら上位の季節の歌は、比較的年齢が高い子どもに対して歌う楽曲であり、5歳児クラスを担当する学生が多いということが反映されている結果でもある。

実習指導において、園児の年齢やそれまでの経験、季節や時期を考慮することはあらかじめ伝えてあったため、このような結果となったと考えられる。

(5) 責任実習で弾いた曲について

責任実習で弾いた曲についてみると、使用した歌と同様、日常生活で毎日使う曲が上位を占め、その後に季節の歌が多く弾かれていることが明らかとなった。

歌を歌った曲数より、弾いた曲数の数字が多いことは、学生自身はピアノのみを弾き、子どもに歌ってもらうということが結果として数字に反映されているものだと推察される。

(6) 責任実習で使用された絵本について

責任実習で使用された絵本は、かなりのばらつきが見られるが、年長児になると、理解力が増すため、どんなジャンルの絵本を読んでも、問題なく聞くことができるようになるということが考えられる。絵本の読み聞かせは、子ども自身が多くの言葉を知り、言葉を理解するという意味でとても重要な教材である。また、そのことは子どもたちにとって面白い場面は伝えたくなり、その世界を共有したいという思いに導かれる。その思いを伝えることが自己表現にもつながり、人間同士の関わりであったり、相手の話を聞く姿勢にもつながるといふ能力を育てるといふことを実習指導において伝えてあるため、絵本の使用が多く見られたと考えられる。

(7) 責任実習で使用された紙芝居について

紙芝居については絵本に比較すると、使用頻度が少ない結果となった。手軽に子どもたちに読むことができるのが紙芝居より絵本であるということもある。また、保育室に常備されている教材としては、絵本であるということが原因の1つではないかと思われる。

また、前期実習指導では、紙芝居のカリキュラムが組まれておらず、幼稚園での部分実習では、前もって持ち方や読み方を習っていないため、自信を持って行うことができる絵本の読み聞かせを責任実習でも行ったと考察できる。

本調査研究の結果として、アンケート調査の実施日が夏休み中ということもあり、全員分の集計が十分にできなかったということは明らかであるが、教育実習指導で行った指導がそのままの形で学生に反映され、実習を行っているということである。実習指導者は、学生のニーズに合わせ、多方面にわたる指導を行う必要性があるということを考えなければならな

いということが明らかとなった。

5、結論

本研究では幼稚園実習のスキルと責任実習での傾向と課題についての調査を行った。その結果、講義で行った内容である製作である「花コプター」「フリスビー製作」「紙コップのケン玉」などが多く実習時に行われており、前期実習の前に指導できずに実習に送り出した紙芝居については、使用する学生が少ないという結果が明らかとなった。

このことから、学生は授業であらかじめ行ったものに関しては自信を持って実習を行うことが出来るが、それ以外については、自分自身で前もって学び、実習に生かすということが難しいという傾向が見られた。また、スキルについても同様のことが言える。

指導者の立場として、実習前にできるだけ多くのスキルを身に付けられる授業内容を配慮し、行っていく必要があるのではないかとということが考えられる。この調査結果を基に、早急にそれらについて授業に反映させる必要があるということが理解できた。

参考文献

- 文部科学省「幼稚園教員の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教員のために」
全国保育士養成協議会『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房. 2007年。
民秋言・安藤和彦等編著『幼稚園実習』北大路書房
浅野ななみ監修『たのしくおどろう！てあそびうた』成美堂. 2008年
林 幸範・石橋 裕子『保育園幼稚園の実習』成美堂. 2012年。